

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201322		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里(すみれ)		
所在地	長崎県佐世保市長畑町450番地1		
自己評価作成日	2023年10月12日	評価結果市町村受理日	令和6年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 5年11月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づいて、利用者様一人一人がいつまでも自分らしく生活出来るように、支援しています。職員で意見を持ち寄り、共有し、家族からの意見や相談にも対応し、可能な限り、実施出来る様に心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は穏やかな里山の雰囲気が残る恵まれた環境に立地し、同敷地内の法人施設や法人母体である医院が近接した環境の中で運営している。全職員は利用者一人ひとりの“その人らしさ”を大切に支援を目指し、日々、メモを活用して情報収集を行い、カンファレンス内での情報共有に取組んでいる。母体医院の毎日の往診や職員として看護師の配置、24時間オンコール体制など医療体制を整備しており、医療体制は職員のみならず利用者や家族にとっても安心に繋がっている。利用者が自分の人生の時を自由に自分らしく過ごすための支援に努めており、自分だったら他人にどう介助されたいか、利用者がどうしたいかを自分ごととして考え、誠意ある支援を検討し実践している。理念である「実りたたる稲穂のように いつまでも 自分らしく あり続ける 人生(とき)を送る」を具現化している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関やフロアに掲示し、職員全員で共有し、実践に繋げている。	理念である「実りたたる稲穂のように いつまでも 自分らしく あり続ける 人生(とき)を送る」を通して一人ひとりを大切にしたい支援を目指している。事業所内の各所に理念を掲示し、月1回のカンファレンス時にはテーマを決めて勉強会を行っている。その後「その人らしさ」とは何かを職員間で共有し、支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の、商店を利用し、定期的に行われている清掃活動に参加している。コロナ禍が緩和してきたが、高齢者に配慮し、保育園交流会は、まだ中止し、お土産を渡している。	コロナ禍で地域とのつきあいは減少しているものの、近隣住民とは地域清掃時に職員が参加したり、散歩時に挨拶を交えるなど、顔なじみの関係を保っている。保育園との交流は自粛中だが、園児の手作り作品とお土産の交換など、内容を検討しながら交流方法を模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議が、コロナ禍で中止、書面会議を行っていたが、9月より施設開催を行った。	9月から対面で運営推進会議を開催している。各ユニット、施設ごとに運営状況を取りまとめた後、法人全ユニット合同開催としている。そのため、ユニット内の各家族からの意見の吸い上げが難しい。また、家族代表1名が参加し、他家族には会議の情報発信はない。	家族への情報発信の手段を講じることが、事業所への信頼や安心感を得ることに繋がると考えられる。ユニット毎の情報提供、運営推進会議の意義や報告の発信に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関してわからない事を各担当者に相談している。コロナ禍で研修等も中止であったが、研修が始まり参加している。	管理者は、日頃から電話で行政に運営上の問い合わせを行っており、福祉関連の書類整備や介護保険法令の変更点などについて確認している。行政主催の外部研修が再開しており、案内に沿って職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を定期的に行い、通常対応でも拘束にあたらぬ職員同士で話し合いながらケアを行っている。	法人全体で不適切ケアの防止に取り組み、外部・内部研修の実施、ミーティング時の話し合いで具体的な事例をもとに確認している。センサーマットは使用していない。3ヶ月に1回、法人内事業所全ユニットで身体拘束廃止委員会を開き、結果を運営推進会議にて報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で行っているが、コロナ禍のため開催出来ず、資料配布し、報告書提出している。ミーティング等でも職員同士で話し合いを設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会を実施している。現在対象者の方はいないが、必要時に活用出来るようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、家族が十分理解出来る様に説明し、必要なものリストを渡している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会時には家族に意見や要望を伺い対応している。	入居契約時、苦情相談窓口を書面に明記し説明している。電話や家族訪問時、家族との会話から意見や要望を汲み取り、サービス向上に努めている。コロナ禍で自粛中、面会したいという声から、携帯電話を活用し、窓越し面会を実現している。利用者の食べたい物等も会話の中から把握し、献立に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等にて職員の意見を聞き、意見交換を行い、利用者様の支援に生かしている。	毎月のミーティングやカンファレンス等にて、職員は自らの意見を表すことができています。管理者は、職員の意見を、法人内の管理者会議で報告し、情報共有するとともに反映している。職員の意見から、業務内容の改善や調理器具の購入を行うなど、職員の提案の反映事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の一人一人の意見を聞き、職場環境の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に必要な研修への参加の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて定例会議での意見交換を行い、東部ブロックでの研修を実施し、交流の場で職員の向上を目指している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様、家族、ケアマネ用の連絡、意思確認を行い、入所前にスムーズに生活出来るように、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の意見、家族の要望を確認し、安心して施設で生活して行けるようにプランを立て、反映していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族にアセスメントを行い、話し合いが出来る場を設けて必要な支援を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活歴などをもとに、残存機能を見極めて、無理のない支援をしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、限られた時間のなかで、有意義に過ごして頂けるよう環境作りを行う。家族に、普段どのような生活をしているか、エピソードなどをお知らせし、共有する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や広告等を活用し施設での生活を発信している。	入居時、家族や本人との面談で馴染みの人や場、習慣などの情報を把握している。コロナ禍は、外出や面会を自粛していたため、手紙や電話、窓越し面会など関係継続に努めている。職員は、利用者との関りから新たな情報を把握しているものの、記録は確認できない。	把握した情報は、メモを活用し職員の情報共有ツールとなっており、利用者に関する情報が点在している。得た情報を効果的に活用するために、利用者の馴染みや習慣など、新たな情報を一括して確認できる仕組みづくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、ADLなど、それぞれの相性を考慮し、場面に応じた席の配慮、声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係機関との連絡や、必要に応じて様子観察等行うことがもある。相談等は対応を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者様の意向や要望の把握に努め、意思の発語が難しい方には、本人の立場に立って支援している。	職員は、利用者一人ひとりに寄り添い、関わりの中から、暮らし方の希望の把握に努めている。会話が困難な時は、表情や本人の気持ちになって検討している。職員は、カンファレンスやメモを活用した記録にて、情報を共有している。居室の模様替え、食べたい物や一日の過ごし方など、利用者の声を反映した支援となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族に話を聞き、生活歴や趣味等を把握し、職員間で情報交換しながら支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し、記録に残し、変わった様子はないか情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや、モニタリングを実施し、ご家族の意見を取り入れ、利用者様により良いケアを目指している。	介護計画は長期目標設定1年半年毎の見直しを行っている。職員は、ミーティングやカンファレンス時にプランの内容や気になっている点を話し合い、モニタリング時に把握した利用者の状態や支援の実施方法を記録し、作成担当者が総括表にまとめている。面会時に家族に説明し、同意のサインを得て実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送りノート等により、情報共有し、職員が同じ支援を行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状態、状況に合わせて、その時に応じた柔軟な支援や対応が出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため地域の方との交流が出来ていないが、職員を介してコロナ禍前の繋がりが切れない様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、受診、協力医との連携や相談を行っている。利用者様やご家族の意向も伝えている。法人以外のかかりつけ医には必要に応じ情報提供を行っている。	法人母体の医院がかかりつけ医となり、入居時の健康診断、毎日往診による体調管理、夜間急変時の対応を行っている。さくらユニットに配置されている看護師は状況に応じて他ユニットの応援を行っている。他科受診の際にはかかりつけ医から紹介状を介して他病院を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の報告、気づき、相談をなど情報提供し指示や助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と情報提供を共有し、努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明し、状態変化時や終末期には再度説明し、ご家族の意向も聞きプランを作成、病院や看護師との連携、情報の共有を行っている。	入居時に重要事項説明書、対応指針にて重度化終末期に向けた方針を説明している。状態変化に応じて担当医の意見を交えながら家族で方針を話し合っている。看取り介護についての方針を共有するため看取りプランの作成を行っている。職員は、看取りについての研修、看取り介護の経験共有を重ね、本人が安心できる支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って医療機関に連絡、対応する。定期的に勉強会を実施し、スキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に防災避難訓練を実施、近くの同法人他施設との協力体制を築き、お互いの訓練時に参加している。	年2回の消防訓練を実施し、内1回は消防署立会で行っている。消火器の取扱いやシートを使った搬送、自然災害等マニュアル、緊急時の持ち出しノート、備蓄リスト整備、避難完了サインの工夫が確認できる。ただし、日中想定訓練、BCP作成については確認できない。	日中想定を含めた消火訓練の実施が待たれる。また、法人で作成するBCPについて、事業所としての加筆も必要であり、作成後は職員に周知を図るなどの取組に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方を敬い、一人一人の心身の状態を見て、その時に応じた言葉のかけ方、対応を配慮している。	職員は、利用者を年長者として敬意を払った声掛けや接し方を行っている。日常では、達成感から自己肯定感が増すように、本人ができることを支援している。職員は、利用者が恥ずかしくないよう羞恥心に配慮した支援に努めている。個人情報に関する書面は事務で管理しており、職員の守秘義務を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを尊重し、意思疎通が出来なくても、表情からくみ取り、話せる雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合わせ、その人らしく生活出来るような環境を配慮する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方は、声掛けを行って、洗顔、身だしなみを整えていただき、本人が好まれる服を選んでもらう。出来ない方は、職員で行い、季節に合った服を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭き、玉ねぎの皮むき、袋たたみなど、無理のない範囲で支援している。そのことによって、自分が協力したという自信がもてるのではないかと。	献立は、利用者の嗜好を考慮し、全職員で作成している。地元の商店や旬の食材を使い、職員が手作りした料理を提供しており、食材の切り方や硬さは、本人の咀嚼に合わせて配慮している。敬老会の特別メニュー、弁当を外で食べるなど特別な食事会を行い、職員は利用者が楽しみながら食事できるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調に合わせた食事形態、栄養バランス、食事にかかる時間をみて時間を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛け、出来ない方は介助を行い、義歯については、定期的に洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者様の排泄パターンを把握し、声掛け誘導している。出来ない方は、出来ない部分で介助を行い、支援を行っている。	職員は排泄チェック表に、利用者の排泄介助状況を記録し、排泄パターンの把握と介助内容の見直している。職員は、利用者が心地よく日常を過ごせるよう、排泄の自立に向けて支援内容を検討しており、パッド類のサイズを見直している。これまでに本人の思いを優先し、リハビリパンツから布パンツへの移行した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量等を把握し、乳製品などを提供、軽い運動等を行い取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調に合わせて対応、拒否の方は時間を置いて再度声掛けを行っている。	週2回入浴日を設定している。入浴拒否や体調不良時は別日に変更している。同性介助や脱衣時のプライバシーへの配慮に注意を払っている。寝たきりの利用者には、清拭と足浴で対応している。持込みのシャンプー類を使用したり、浴槽に浸かり寛げるよう支援しており、入浴が心地よい時間になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の習慣や体調に応じ行っている。室内調整を行い、過ごしやすい環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が薬情の確認や情報の共有を行い、気づきがあれば主治医へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や趣味を把握し、個々に合った楽しみを支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出支援は自粛しているが、天候に合わせて、外で食事や、散歩の支援を行っている。	ここ数年はコロナ禍のため、外出支援は自粛しており、利用者の体力が低下しないよう、広い施設内を散歩コースに見立てて歩行訓練を行っている。コロナが第5類に移行した現在は、飲食店の弁当を外で食べる日を設けたり、家族の協力を得て外出したり、少しずつ外出の機会を増やすよう見直している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理困難なため家族管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの電話はないが家族からの電話対応は行っている。絵はがきなど、家族から届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や、フロアに基節に合わせた作品を利用者様と一緒に作成し、展示している。日中は、音楽を聴いたり過ごされている。過ごしやすい室温調整を行っている。	リビングにはソファやテーブルが配し、利用者は思い思いの場所で寛いでいる。ユニット間は自由に行き来できる広い廊下があり、開放的な環境である。季節のインテリアや利用者の笑顔の写真、共同制作の作品や職員手作りのイベントグッズなどを飾り、明るい雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや椅子を配置、車椅子の方もソファでくつろいでもらえるように対応している。楽しく話ができる環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面で考慮し居室には、本人の思い入れのあるものを置いたり、施設で行った行事の手作りカード、本人の作品などを展示している。	利用者それぞれに、居室の壁面には家族からの手紙や写真、誕生日カードを飾り、中には自身で制作した絵画作品の掲示もある。室内灯が眩しいと感じる利用者には、照明器具をカバーで覆うなど、一人ひとりの好みに応じた居心地のよい環境となるよう、工夫と配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活習慣や、利用者様の状態に応じ、家具の配置を行い、安全に生活できるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201322	
法人名	医療法人 梶田医院	
事業所名	グループホームみのりの里（さくら）	
所在地	長崎県佐世保市長畑町450番地1	
自己評価作成日	2023年10月12日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくら 基本理念 実りたたる 稲穂のように いつまでも自分らしく あり続ける人生を送る  
入社後に、職員全員が理念に基づいた支援が出来る様、念頭に置いて、時代を乗り越えてこられた年  
長者の方々に、尊敬と敬愛の意を込めて、いつまでも自分らしさを失わずに、自分らしく余生を送られ  
る様な支援を 心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに玄関やフロアに理念を掲示して、各自 その人らしい暮らしが出来る様に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症関係があり、こども園等の交流が出来ていない現状だが、通常 交流会の予定月には 子供達に菓子類等をお渡ししている。コロナ禍 緩和に向けて地域との繋がりは検討して行こうと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回程 地域清掃を実施して交流を深められる様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍が緩和されて、マスク着用にて、感染症対策をしたうえで3年ぶりの開催となったが、グループホーム内の取り組み・ヒヤリハット・事故事例などの報告をして地域との繋がりがもてる 意見交換が出来た。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所に関する資料等でわからない事は担当者にTELや市役所の方に出向き 相談・助言を頂き外部研修の方も参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内・外での研修に参加して、資料で勉強を したりミーティングで意見交換をするなど スタッフ皆が理解して虐待・拘束防止に努めている。		

グループホームみのりの里（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内・外での研修に参加して、資料で勉強をして、職員間でも日頃より虐待に値しないか注意を払い意見を出し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。現在対象者はおられないが今後必要と思われる方がおられた場合には関係者と協議して制度利用を支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、個々に説明をして納得して貰い同意を得ている。重要事項の内容に変更があれば事前に説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱の設置をしている。面会時に、運営にご家族からの質問や意見があった場合には上司への報告を行う様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で提案や改善・予防等があれば検討してグループホーム協議会や管理者会議の場で提案できる場を設けてある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場作りの為に、職員の意見を聞き職場環境の整備やサービスの質の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍中は施設外の研修をリモートで参加していた。施設内・外問わず研修の案内があった場合は、自分の興味がある研修に参加できるように 情報提供している。		

グループホームみのりの里（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて様々な意見交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・ご家族様の意見を出来る限り実現していただける様に情報招集をしっかりと実施して、職員全体で周知していきサービス提供できる様に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やTELなどで、困っている事、不安な事、求めている事をよく聞く機会を作り受け止める 努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族様にアセスメントを実施して意向や希望など話し合いが出来る場を作り必要な支援を見極める様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に応じた出来る事、やりたい事を日々生活の中に取り入れ、暮らしを共にする者として一緒に喜怒哀楽を感じられる関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には限られた時間の中ではあるが、ご家族様と有意義に過ごして頂ける場の提供をして、共に本人様を支えていく関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	TELや写真、広報等を活用してホームでの生活の様子を発信している。		

グループホームみのりの里（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しめる行事を行い、利用者様同士が関わり合える様な環境作りを実施している。又、利用者様同士の関係を考慮した上で食事の席の工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係機関との連絡や必要に応じて様子確認を行う事もある。相談時は随時、対応できる様にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を聞きながら対応している。日常の関わりの中で個々の嗜好の把握をしてそれに合わせて支援出来る様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様と日常会話をしたり、ご家族様の面会時に生活歴や好まれていた事等の情報を聞き取り、職員間でも共有して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に状態観察をして記録や申し送り等にて、職員全員が日常生活を把握できる様に、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや定期的なモニタリングにて日々の状態を職員皆で検討している。又アセスメントシートを活用して職員の意見やアイデアを反映してたり本人・ご家族様の意向や要望を取り入れたケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を毎日記入しており、その日の状態がわかる様にしている。気づきがあれば職員皆で共有し、介護計画に生かしている。		

グループホームみのりの里（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様の状況把握をして、その時々で 臨機応変に柔軟な支援や対応が出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は地域の美容室を利用する事など交流を図れていたが緩和されたとはいえまだ 実施出来ていない部分もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様から相談があった場合など 往診・受信時等、協力医との連携を適宜に行っている。法人外の病院にも必要に応じて情報提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の報告・健康管理・相談、助言等で適切な 受診、看護を受けられる様に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合には、情報の提供・交換をして、早期退院に向けて相談等の出来る関係作りの構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時・状態変化等・終末期の都度本人・ご家族様の意向を確認し説明をして理解をして貰い プラン作成をしている。又、病院への情報提供・共有を行い連携体制を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って医療機関に連絡し対応する。職員はマニュアル作成ファイルを時間がある時に目を通したりリシュミレーションをしたりして定期的に消防職員より救急救命講習を受講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回 自主消防避難訓練を実施している。 コロナ禍も緩和されたので3月に消防職員の指導のもと実施したが地域住民の参加は見送った。運営推進会議で書面にて掲載した。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状態や性質に合わせて声掛けを行っている。プライバシーに配慮し内容によっては場所を変えて話す等の対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく本人に意思確認をしている。意思疎通ができられなくともその表情から汲み取ったり、わかりやすく選択肢などで答えられる様な働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた起床時間や食事・おやつ等出来る限りの対応をして、本人様の声を傾聴してその時々々の状況に応じた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様が整容できる方は、声掛けを行い、身だしなみを整えて頂き、介助が必要な方には 職員が声掛けをして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時期の物を献立に取り入れたり、個々の嗜好食を把握している。食後のお盆拭きや茶碗洗い等のお手伝いが出来る方には、声掛けをして一緒に 施行している。又、外食支援等の行事があり 楽しんで貰っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態の観察をして日々職員間で情報を 共有し、食事・水分量の記録をしている。不足していると思えた時には、栄養補助等の補給を 提供 している。		



グループホームみのりの里（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け・見守りを行い、介助が必要な方には出来る事はして貰い出来ない事の支援を提供している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握してそれぞれに応じた声掛けや誘導を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保をして頂く様に心がけている。乳製品の提供や軽運動・腹部マッサージ等実施している。又排便チェック表を活用して個々に把握できる様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に応じた入浴の支援となる様に心がけをしている。拒否がある方には無理強いせずタイミング等を見計り場合によっては清拭に変更したりして支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や本人様の思う様に、午睡して頂いている。意思伝達が出来ない方は状態観察をして午睡の時間を設けその際には、室温調整にも 気配りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認し個々の状態と合わせて理解する様努めている。又、現状に応じて主治医と相談し 薬剤の変更等を適宜に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や現在の状態等を生かして利用者様に合った役割を持ち出来る事の楽しみをもてる様な取り組みに心がけて支援している。		

グループホームみのりの里（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナやインフルエンザ等流行の時期は外出を控えて貰っているが、職員と施設周辺の散策をして気分転換をして貰っている。本人様・ご家族様からの希望があれば外出できる対応をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様 全員が自己管理困難な為、ご家族様での管理をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	近況報告等ご家族様へ連絡する時は本人様にもTELを替わりお話しをして貰っている。又誕生日にはご家族様へお手紙を依頼してサプライズを試みる支援を実施した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア・居室扉の前に月替わりで飾り付けを行い季節を楽しんで頂ける様に工夫をしている。居室は個々に採光や冷暖房の空調管理等、配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではテーブル席・ソファー等の位置を調整し環境整備を行い独りでも複数人でも楽しく会話が出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様・ご家族様と相談しながら、使い慣れた物の持ち込みやご家族の写真等身近にセッティングして本人様が居心地よく過ごせる空間を提供している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を考慮した上で本人様・ご家族様と相談して自立支援を目指し状態に合わせて希望に沿った家具等の環境整備を行っている。		